

【小施策評価(平成29年度実績評価)】

小施策の総合計画における位置付け

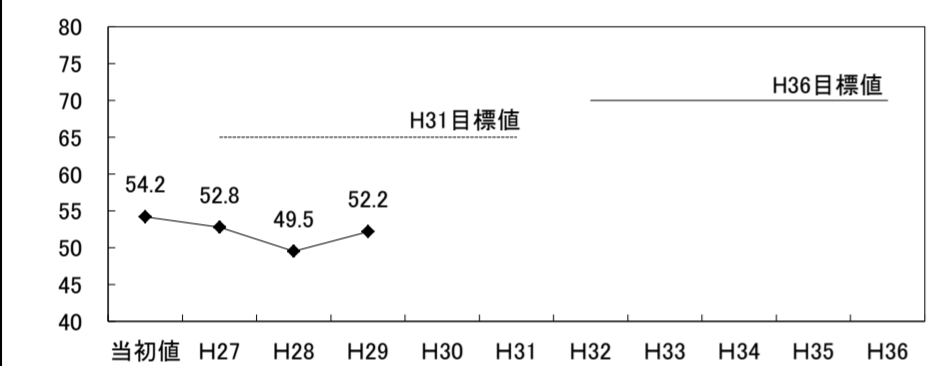
基本目標	1	人がいきいきと暮らすまちづくり	小施策 主管課等	保健所企画総務課	
施策	4	健康づくり・医療の充実	評価 責任者	藤井 優子	内線 691-6610
小施策	4-4	医療機関との連携強化	評価 シート 作成者	佐々木 一憲	内線 691-6611

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	⇒	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
<ul style="list-style-type: none"> すべての人がいつでも必要な医療サービスを受けられる医療体制の整備が求められている。 医師の確保は、個々の自治体のみでは困難であり、県全体で継続的に取り組む必要がある。 夜間などに比較的軽症な救急患者が、第二次・第三次救急医療機関に集中することは、重症患者の治療の妨げや医師の過重労働による疲弊など、医療現場に大きな影響をもたらしていることから、症状に応じた適切な受診を促進していく必要がある。 		すべての人が必要な医療サービスをいつでも受けられるよう、医療機関の連携と機能分担を推進し、信頼される地域医療と救急体制の充実を図る。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	⇒	意図(対象をどのようにしたいのか)
市民		受診できる

小施策の成果指標の達成状況・評価(平成29年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
指標①	単 位	目指す方向	成 果 点	⇒	成果の要因分析
まちづくり評価アンケート調査「かかりつけ医がいる」と答えた市民の割合	%	↗	<ul style="list-style-type: none"> まちづくり評価アンケート調査「身近に健康について相談できる人がいる」と答えた市民の割合が平成29年度85.8%と高い。 まちづくり評価アンケート調査「いつでも身近に受診できる医療機関がある」と答えた市民の割合が平成29年度84.5%と高い。 		<ul style="list-style-type: none"> 健康や医療に対する市民の関心や需要は高まっている。
当初値 (H25) 54.2		H31目標値 65.0	問 題 点	⇒	問題の要因分析
		H36目標値 70.0	<ul style="list-style-type: none"> 「かかりつけ医がいる」と答えた市民の割合が目標値より低い。 入院や手術が必要な重症の患者を受け入れる二次救急医療期間が混雑する。 重篤な救急患者の対応や治療が遅れるほか、医師や医療従事者が疲弊する。 		<ul style="list-style-type: none"> 仕事等の影響で、平日の診療時間内受診ではなく、休日や夜間に救急医療機関を利用することがある。



今後の方向性(平成30年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…30年度着手済または着手予定 ☆…31年度以降の着手を検討
<ul style="list-style-type: none"> ★ 2019年9月に移転したあとに開院予定の(仮称)内丸メディカルセンターの動向について確認を行い、救急医療部会等を通じて広域8市町で情報共有しながら、適正受診の周知方法を検討する。 ☆1 かかりつけ医を持ち、「病気かな」と思ったら、普段の様子を知っているかかりつけ医を利用する。 ☆2 初期救急患者は、夜間の場合は盛岡市夜間急患診療所を、休日日中の場合は休日当番医の利用を促す。 	